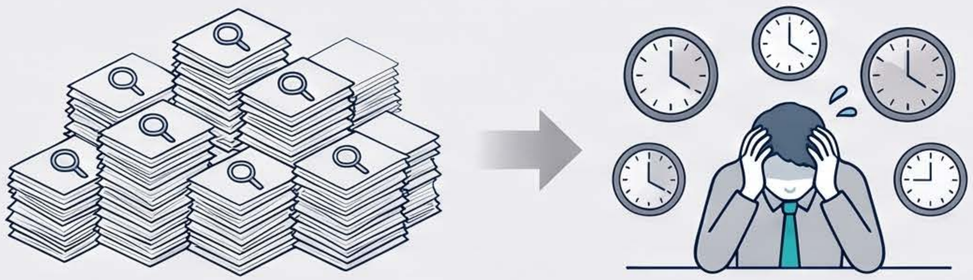
生成AIがもたらす特許SDI調査の構造改革

従来運用：膨大なノイズと過重な手作業



全件目視からAIによる判定・多段階フィルタリングへ

Must案件と除外コードに基づきAIがA〜D判定し、目視対象を圧縮。



長文精読から「構造化抄録」と「対比表」の自動生成へ

DWPI形式の要約と自社技術との照合表 (クレームチャート) を即座に作成。

生成AI統合型プロセス：劇的な工数削減と戦略的シフト





DWPI形式の要約と自社技術と照合表 (クレームチャート) を即座に作成。



人間拡張型 (Human-in-the-Loop) で見落としを防止

高リスク案件や境界案件を人間が100%検証し、網羅性と精度を両立。

導入効果と知財人材の役割進化



調査工数を最大86%削減 (NEC事例：22時間→3時間)

カネカ社では全社で年間1,800時間の調査工数削減を達成。



人間が精査すべき母集団を全体の22.3%に圧縮

高い再現率(網羅性)を維持したまま、目視査読の負担を大幅軽減。



サーチャーは「コンテキスト・アーキテクト」へ進化

定型作業から解放され、判定基準の設計や攻めの知財戦略を主導。

Gemini Notebook